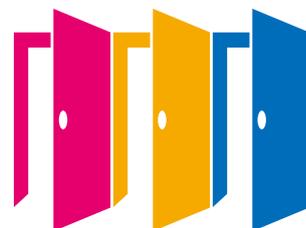


Governor's  
MONTHLY  
LETTER 2021

6

Rotary  
District 2750



Rotary Opens Opportunities  
ロータリーは機会の扉を開く

ガバナー月信

6月号



## Governor's Message

国際ロータリー第2750地区  
2020-21年度ガバナー

福原 有一

**人生は芝居の如し。  
上手な役者が乞食になることもあれば、  
大根役者が殿様になることもある。**

私のガバナー月信もいよいよ最終稿となりました。一年間、拙い文章を辛抱強くお読みくださり、皆さまに感謝申し上げます。昨年の1月、米国カルフォルニア州サンディエゴ国際協議会でホルガー・クナーケRI会長が「ロータリーは機会の扉を開く」と提唱されてから、早くも2020-21年度最終月。どのくらい多くの方の機会の扉を開けることができたのか、と考えると忸怩たる思いがあります。

さて、冒頭の「人生は芝居の…」は福沢諭吉の言葉です。NHKの大河ドラマ「青天を衝け」と同時代、明治維新からさまざまな人物の栄枯盛衰を見てきた諭吉ならではの名言です。人生という舞台では、才能も実力もある人が地位に恵まれないこともあり、実力がない人間が高い地位につくこともある。人生とはままたらぬものだから、今を一生懸命に生きることが大切だ、という教えです。自分を客観的に眺めて、今どんな舞台でどのような役を担っているのかなどと、考えるのも面白いのではないのでしょうか。

人生は芝居だと捉えると、そこにロータリアンという役を加えることで、より充実した人生を送れるのではないのでしょうか。

そでご提案です。ロータリーには、多様な職業、多彩な趣味(例えばヨット、囲碁、切手収集、ランニング、フィットネスなど)の仲間がいます。自分で少し積極的に動くことで、趣味を通じて友情を培うこと、友情から新たな趣味に出会うこと、そして自分の知らない世界の見聞を広めることもできます。そして時には、クラブ内に留まらず、海を越えてもっと広い範囲で、多くの人と知り合い、趣味や活動の範囲を広げていくのもお勧めです。親睦活動はロータリー活動を活性化させるエネルギーの源です。国際奉仕は少しハードルが高いとお考えの方も、趣味の親睦活動を通じて、国際奉仕への足掛かりをつかむこともできます。これこそロータリー活動の醍醐味であり強みです。

ガバナーとしてこの一年間、皆さんと一緒に、楽しく主体的に奉仕活動や親睦活動に取り組んできました。コロナ禍で続けたガバナークリップは、日々変わる状況、そして今やるべき活動は何かなど、その時の思いを映像でお届けしました。奉仕活動や親睦活動も、地区やクラブのご関係者がしっかりと工夫しながら実現してくださいました。ただ、未来を担う若者に対する支援である青少年指導者養成プログラムや青少年交換プログラムが計画通り実施できなかったことは心残りです。しかし、これからも若い人が地域のリーダーに成長するために、ロータリーは機会の扉を開き続けます。そして、この一年間、私がテーマとした「バリアフリー・マインド」が、皆さんの奉仕活動に少しでもお役に立っていただければ幸いです。

最後に、ガバナーとしての私を長い間支えてくださったスタッフの皆さま、そしてこの困難のなか、少しでも社会を良くしようと献身されたロータリアンの皆さま、心より感謝申し上げます。コロナが治まり、また元気にお会いできることを祈念して、一年間の感謝を申し上げます。



地区研修・協議会 報告 | 開催日: 2021年4月22日 (木)

2021-22年度 地区幹事 河村 勝久 (東京立川こぶしRC)

ハイアットリージェンシー東京にて、新型コロナウイルスに対する感染防止策をとり、全体会議、分科会、全体会議からなる三部構成で地区研修・協議会を開催いたしました。

現在、地区委員会の各セミナーやクラブ例会運営でWEB利用が活発になってきており、今回の地区研修・協議会においても初めてWEBを活用しての運営となりました。

全体会議では出席者を地区役員と会長・幹事とし、各クラブ委員長の皆さまはWEBで参加する形式といたしました。分科会では、部会毎に個別の部屋を準備し、担当委員会からのZOOM配信で各クラブ委員長の皆さまとの間で研修・協議を進めました。

実際の運営を通してみると、規模の違いによる利点や改善点が明確になりました。この点をよく整理・分析して、今後の会合等の準備に生かしていきたいと思えます。

すでに実施済みの地区チーム研修、会長エレクト研修セミナー(PETS)に今回の地区研修・協議会を加えて、地区三大研修は無事に終了することができました。地区研修委員会並びに関係各位のご指導やご協力に心より感謝申し上げます。



地区研修・協議会の内容は下記のとおりです。

9:30 開会点鐘

司会進行: 研修委員会 加藤高白 (東京八王子北RC)

全体会議 (ZOOM併用)

- ・ガバナー挨拶: 福原有一ガバナー
- ・WEB国際協議会報告: 三浦眞一ガバナーエレクト
- ・地区方針・地区重点目標・地区組織説明: 三浦眞一ガバナーエレクト
- ・クラブ役員の役割と責務: 大槻哲也 次期地区研修リーダー
- ・RID2750 地区戦略計画: 大槻哲也 次期地区研修リーダー
- ・ロータリー危機管理のルール: 鈴木義明 次期危機管理委員長
- ・地区大会について: 田辺隆一郎 次期地区大会実行委員長 (東京八王子西RC)
- ・国際大会について: 森屋義政 次期国際大会推進委員長 (東京八王子北RC)
- ・2020支援委員会の紹介: 橘高薫子 次期委員長 (東京恵比寿RC)
- ・ロータリーファミリー支援委員会の紹介: 青柳薫子 次期委員長 (東京広尾RC)

昼食

13:00 分科会開始

- ・会長・幹事、会員部会 (ZOOM併用)
- ・奉仕プログラム部会 (ZOOM)
- ・青少年奉仕部会 (ZOOM)
- ・公共イメージ部会 (ZOOM)
- ・ロータリー財団部会 (ZOOM)
- ・米山記念部会 (ZOOM)

15:30 全体会議 (ZOOM併用)

- ・各部会報告
- ・講演: 大槻哲也 次期地区研修リーダー
- ・閉会挨拶・点鐘: 三浦眞一ガバナーエレクト

16:30 閉会



分科会 A	会長・幹事、会員部会	「センチュールーム」
進行	リーダー 研修リーダー 大槻 哲也 (東京中央RC) サブリーダー 研修リーダー補佐 羽田 伊助 (東京目黒RC)	
12:50 (5分)	予備事項	地区幹事委員会
12:55	開会・趣意説明 (挨拶) 大槻 哲也 クラブ概況報告について 宮田 伊助 概況報告立案の現況 研修委員5名 効果的なロータリークラブとなるための活動計画について 加藤 高白 概況報告立案のイメージ 小林 聖佳 コロナ禍での会合開催について、クラブが守る公共イメージ 盛 洋子 クラブ幹事へのお願い 山本 俊明	
14:30 (5分)	会員委員会	鈴木 隆志
(5分)	会員幹事委員会	小塚 裕一
(30分)	会員研修	鈴木 隆志
15:10	閉会	
分科会 B	奉仕プログラム部会	「東山」
進行	リーダー 西澤 民夫 (東京赤坂RC) サブリーダー 太田 高正 (東京中央RC)	
13:00 (10分)	開会	
13:10 (20分)	奉仕プログラム委員会の紹介	西澤 民夫
13:30 (20分)	職業奉仕について	市川 和博
13:50 (20分)	福祉奉仕について	太田 高正
14:10 (20分)	国際奉仕について	高澤 清司
14:30	奉仕のついでについて	大日方 真
15:30	質疑応答	
	閉会	
分科会 C	青少年奉仕部会	「天守」
進行	リーダー 武藤 英正 (東京世田谷南RC) サブリーダー 飯塚 (東京豊田RC) 横守 彰彰 (東京府中RC) 坂野 達雄 (東京世田谷南RC)	
13:00 (20分)	開会 趣意説明	武藤 英正
13:20 (20分)	ロータリーについて	片岡 聡
13:40 (20分)	青少年奉仕について	田村 聖巳
14:00 (20分)	サトルについて	藤原 大蔵
14:20 (20分)	インターナショナルについて	高久保 一
14:40 (20分)	インターンシップについて	小室 大輔
15:00 (20分)	質疑応答	坂野 達雄
15:10	閉会挨拶	飯塚 達
分科会 D	公共イメージ部会	「養生」
進行	リーダー 公共イメージ委員長 田中 誠 (東京小宮井RC) サブリーダー 田中 誠 (東京府中RC) 田中 誠 (東京府中RC) 田中 誠 (東京府中RC)	
13:00 (5分)	開会	
13:05 (30分)	ボイス・ビジュアル・オーディオの活用	田中 誠
13:35 (5分)	「世界がリーダー・トランジション」プロジェクトについて	田中 誠
13:40 (20分)	基調講演「公共イメージ向上に向けた実践的活動から」	RID2770 小林 達 POG
14:10 (10分)	～休憩～	
14:20 (50分)	Zoomの活用法	田中 誠
15:10 (20分)	質疑応答	
15:20	終了	
分科会 E	ロータリー財団部会	「天守」
進行	リーダー ロータリー財団委員長 安波 浩 (東京昭島RC) サブリーダー ロータリー財団副委員長 馬場れい子 (東京八王子東RC)	
13:00 (5分)	開会	玉村 秀樹
13:05 (30分)	ロータリー財団をもっと身近に 財団基礎知識 財団委員長より	安波 浩
13:35 (10分)	資金調達委員会 委員長より	今井 隆一
(10分)	補助委員会 委員長より	森田 浩介
(10分)	資金管理委員会 委員長より	藤原 清幸
14:05 (10分)	～休憩～	
14:15	奨学・学友・VIT委員会 委員長より	森田 彰
(15分)	ボリス・アラスカ委員会 委員長より	加藤 明
(20分)	ロータリー・アラスカ・エロン・シオン委員会 委員長より	市澤 啓
15:05 (10分)	クラブへのお祝い	安波 浩
15:15	閉会	玉村 秀樹
分科会 F	米山記念部会	「西野」
進行	リーダー 米山 誠 (東京三鷹RC) サブリーダー 土屋 義明 (東京目黒南RC) 粕谷 啓之 (東京有明らさきRC) 相田 雅弘 (東京昭島RC) 外 貞子 (東京山友愛RC)	
13:00 (5分)	開会 趣意説明 (挨拶)	米山 誠
(15分)	事業紹介ビデオ	粕谷 啓之
(20分)	米山記念奨学事業の概要・地区活動方針	相田 雅弘
(20分)	米山記念奨学委員会について (議事方法)	粕谷 啓之
13:55 (5分)	～休憩～	
14:00	米山記念奨学委員会について (質問のお願い) 質疑応答	相田 雅弘
(20分)	米山記念奨学委員会について (日本と世界を結びつくり) 質疑応答	粕谷 啓之
(20分)	米山学友会	粕谷 啓之
15:00	閉会	米山 誠



## 一年間を振り返って

地区研修リーダー 水野 功 (東京飛火野 RC)



早いもので、福原年度がスタートして準備期間を含め、1年半が経過しようとしています。昨年1月にRI研修リーダーとして、福原ガバナーご夫妻と約一週間寝食をともにしながら、国際協議会での研修を終えて、意気揚々と帰路に就いたのがつい最近のように思われます。サンディエゴで中国武漢にてウイルスの感染

が見つかったとの小さな記事に触れましたが、まさかここまで大きな影響が出るとは夢にも思いませんでした。地区チーム研修セミナーは何とかリアルで開催できましたが、会長エレクト研修セミナー(PETS)は資料を送付して、各クラブ会長エレクト(当時)より結果報告をいただくことになりました。

三大研修の最後の地区研修・協議会は、福原ガバナーとギリギリまでご相談をして、ソーシャルディスタンスを十分にとり、さらに感染防止策を徹底したうえで、人数を絞りリアルで開催いたしました。ガバナーの強い想い、すなわち各クラブ会長の方々とは年度前にぜひともFace to faceで意思疎通を図り、「バリアフリー・マインド」を共有して年度を迎えたいとの考えに立ち、リアルで開催いたすことが出来ました。さらには、コロナ禍のなか、オンライ

ンならではの工夫で、パシフィックベイシンググループ(PBG)のガバナー補佐にも地区役員会にZOOMで毎回参加いただき、通常の年度より密に、そしてダイレクトにPBGと情報を共有することが出来ました。残念ながらPBGへの公式訪問はできませんでしたが、国内のクラブにはリアル或いはハイブリッドで公式訪問をすべて終了できました。地区内に、ガバナーの想い「バリアフリー・マインド」が浸透したものと思います。地区大会も最後の最後まで、人数を絞ったうえでリアルでの開催を模索しましたが、変異型コロナウイルスの急拡大を受けて、バーチャルでの開催となりましたが、ガバナーの強いリーダーシップとアイデアに溢れた企画により、素晴らしい地区大会となりました。オンラインでの一つのモデルとなる大会であったと感じています。

年度を通じて、文字通りホルガー・クナークRI会長テーマ「ロータリーは機会の扉を開く(Rotary Opens Opportunities)」を実践できた年度であったと思います。福原ガバナーと共に新しい常態にチャレンジできたことは、地区研修リーダーとして無上の喜びです。支えてくださったすべての福原チームの皆様から心から感謝申し上げます。最後に地区研修リーダーを支えてくださった鈴木地区研修リーダー補佐始め委員の方々に深甚なる敬意と謝意を表します。

## 一年間を振り返って～賽の河原の石積み～

地区代表幹事 安藤 重幸 (東京銀座 RC)



この言葉を調べてみましたら、賽の河原とは三途の川のほとりだそうで、幼くして両親より早く亡くなった子供が親孝行できなかったことの罪滅ぼしとして、そこで石を積み上げ塔を作られる。ただ、完成間際になると鬼がやってきて塔を崩してしまい永遠に完成することが無い。そこから、「賽の河原の石積み」は「無駄な努力」のたとえになっているとのこと。

さて、遡ること1年と半年前の2020年の1月。中国で最初の発生が確認された新型コロナウイルス感染拡大のニュースが世界中を駆け巡った。当時は福原年度地区運営方針の骨子も固まり、私は地区代表幹事として、年度開始において重要なイベントである三大研修開催に向け、関係各位と調整を行っておりました。そのころの私は認識が甘かったのでしょうか。感染拡大の影響を確かに受けはしましたが、「まー、そのうち落ち着くであろう」と楽観視しておりました…が、収まる気配が無いどころか感染者数が拡大し、その後、緊急事態宣言が発出されるに至りました。その為、三大研修の一つ、クラブ会長エレクト対象の「PETS」は開催延期を繰り返し、最終的には非対面で行える方法と

して、通信教育方式を採用することとなりました。もちろん当地区として初めての試みだそうです。また、年度が始まってからも、石を積み上げるように事前準備を重ねてきた企画はCOVID-19と呼ばれる鬼により、ことごとく延期や中止、または開催方法の変更を余儀なくされてきました。

でも、本当に本年度は悪いことだけであつたでしょうか。地区やクラブ運営においてIT化が推進されたことは今年度の積極的な面だと思っております。ZOOMのようなソフトを活用したオンラインミーティングが広まり、非対面で例会や会議を開催したクラブが多く見受けられました。また、この状況下であるからこそ、医療従事者や貧困に喘ぐ子供たちへの支援・奉仕活動を実施したクラブもごぞいます。このように変化に対応し迅速に行動する活動にはロータリーの未来を感じさせられました。

本年度の地区運営において試行錯誤を繰り返し皆さまにはご不便をおかけしたと思っております。但し、地区運営は一年限りではありませんが、ロータリーは継続性のある活動です。皆さまにおかれましても同じ厳しい状況であったと想像されますが、このような試行錯誤が次年度以降のロータリー活動の糧になることを強く望んでおります。そのようになれば、決して無駄な一年を過ごした訳ではなく、「経験」を積み上げたこととなりますので。



## 一年間を振り返って

千代田グループ ガバナー補佐 岩上 義明 (東京赤坂 RC)



2019年の夏、第一回目のガバナー補佐の顔合わせが、福原ガバナーの会社の会議室で開催されて、早いもので二年が過ぎようとしています。あの日の夏は、コロナ前、安全で安心な時代で、前途洋々たる気持ちでございました。その後、何度かのガバナー補佐研修会を経て、これは大変な役職を受けてしまったのだと強く不安になりましたが、12月に千代田グループの協議会を開催し、各クラブの会長さんや幹事さんとお会いして、皆さんが本当に素晴らしいロータリアンでしたのでとても安心いたしました。

明けて、2020年の1月頃から中国の武漢で猛威をふるっている新型ウイルスがある、というニュースが毎日報道されるようになりました。その時私は、このウイルスが全世界を巻き込むパンデミックにまでなるとは思いもよりませんでした。その後の進捗は皆さまご承知のとおり、現在も3度目の緊急事態宣言なかで、英国型変異

株からインド型変異株と、さらに感染力が強くなっている状況です。まさに罹患の恐怖は増すばかりです。

千代田グループとしては、昨年の10月から11月にかけての福原ガバナー公式訪問を予定どおり開催できましたことは、何よりのことでした。しかし、前年度からの引継ぎ案件でありましたインターシティーミーティング (IM) は、日程調整ができず開催できませんでした。大変残念なことでした。

正直申し上げて、この年度は何もできなかったことを福原ガバナーはじめ地区の皆さま、そして千代田グループの各クラブの皆さまに対して、心よりお詫び申し上げます。一日も早くコロナ禍が終息し、通常のロータリー活動のできる日が戻ることを祈るばかりです。

最後に、このような困難な時局にもかかわらず、ロータリーの神髄とも言える「バリアフリー・マインド」を提唱され、果敢なりリーダーシップと溢れる人間的魅力を発揮された福原有一ガバナーに、大いなる感謝を申し上げます。ありがとうございました。

## 一年間を振り返って～ロータリーの可能性～

銀座・日本橋グループ ガバナー補佐 時枝 紀子 (東京中央新 RC)



三度目の緊急事態宣言下でこの原稿を書いています。“不要不急の外出を控えて”と言われますが、果たしてロータリー活動は“不要不急か”と問い続けた一年でもありました。

福原ガバナーにお供したガバナー公式訪問では大変勉強になりました。銀座・日本橋グループの会長・幹事の皆さまの素晴らしいお人柄、そして多様な奉仕活動にはロータリアンの高潔性と奉仕の精神を実感し、コロナ禍で疲れた心も大いに癒されました。またそれらの計画された奉仕活動がコロナ禍にも拘らず、多少形を変えてでも実行されたことには敬意とともに、感動を覚えます。

グループ協議会は10回を予定しておりましたが、そのうち3回はオンライン会議に変更せざるを得ませんでした。対面で集まることを大切にするロータリークラブでオンラインの導入はかなりハードルが高かったのですが、皆さまのご理解とご協力により、結果、全

クラブからのオンライン出席を実現でき、予定通りに開催することができましたこと、心より感謝いたしております。グループ協議会をオンラインで開催する試みも「機会の扉を開く」一つの例になったと思います。

インターシティーミーティング (IM) の実行委員会も対面での会議はたったの3回で、後は全てオンライン会議でした。とはいえ、IM 委員の方々には、多くの時間を割いて準備・ご協力いただき、“ニューノーマル”を探りながらワンチームになれたことは大きな成果でした。IM 終了後、手伝ってくれたローターアクトの一人からもらった感想「ロータリアンのお顔には達成感が溢れていて羨しかった」という言葉が、心に深く残っています。

やはり、ロータリー活動は“不要不急”ではないのです。ロータリアン同士が関わるなかに楽しさと大きな可能性が秘められていることを確信できました。福元グループ幹事とともに、この素晴らしい経験をさせていただいたことに感謝しつつ、名残惜しい気持ちでお役を終わらせていただきます。有り難うございました。



## 一年間を振り返って

京浜グループ ガバナー補佐 北島 アキ子 (東京高輪 RC)



2019年7月からガバナー補佐としての研修が始まりました。水野地区研修リーダーをはじめとする数多くの常設委員会の方々、地区役員の方々にご指導いただき厚くお礼申し上げます。ガバナー補佐という大役を仰せつかり、重責を感じ緊張しておりましたが、福原ガバナーをはじめとする皆さまの温かいロータリーマインドに接し、スタート台に立つことができました。第1回目のグループ協議会を12月に開催、会長・幹事と懇談、ガバナー壮行会では皆さまとの交流も和やかに行われ、福原年度の準備は万全に整って、年度のスタートを楽しみにしておりました。

ホルガー・クナー RI 会長の「ロータリーは機会の扉を開く」、福原ガバナーの「バリアフリー・マインド」で年度が始まる直前に、新型コロナウイルスの影響で、想像もしなかった局面を迎えることになりました。それでも一年前から培われた役員の方々の絆、京浜グループの会長・幹事の皆さまとの密なる連携の

もと、大変な年度ではありましたが、結束できた部分も多々あったかと思えます。

急速に進む社会のデジタル化のなかでオンラインを学び、例会をはじめ、国際大会や地区大会などさまざまな機会に、ZOOM、SNS などリモートで繋がるということをロータリーで経験し、挑戦できたことは、会員の皆さまにとっても大きな収穫となったと思います。福原ガバナー年度は、まさしく今までにない新しい機会の扉を開く、バリアフリー・マインドの年度となり、ニューノーマル時代を生きるためのヒントにもなった重要な年度と言えるでしょう。

世界中が CO<sub>2</sub>削減に動くなか、福原ガバナーの公式訪問は地球環境の問題にさまざまな切り口から問題提起され、私たち会員も環境問題に対する意識を今まで以上に高める機会になったと思います。

最後になりますが、福原ガバナー、地区役員、常設委員会の皆さま、京浜グループの皆さまにご一緒できましたことを心から感謝申し上げます。有り難うございました。

## 一年間を振り返って

山の手東グループ ガバナー補佐 伊藤 千恵 (東京恵比寿 RC)



「ロータリーは機会の扉を開く」「バリアフリー・マインド」を心に置き、目標に向かってコロナ禍のなかでチャレンジを続けた年度でした。計画どおりに進められず、会長・幹事の皆さまにはご苦勞の多い一年であったと思います。特に、度重なる緊急事態宣言下、各クラブ会長は前例のない、正解というものがないなかで難しい判断に都度、迫られました。安全を第一に考えた上で、クラブを効果的に運営するにはどのようなサポートが必要かを模索し続けた日々でもありました。

それぞれクラブによって歴史や会員の構成、現在抱えている課題は異なりますが、まずは運営のためのリソースが必要であろうと考え、情報共有や情報・意見交換のためのグループ協議会を年度前から4月までの間に、オンラインも含めて14回開催いたしました。また、「ガバナー補佐通信」を会長・幹事にお送りし、他地区・他グループの活動やヒントになるような情報、さらには地

区・グループ内の情報などについて、メッセージを添えてお伝えしてまいりました。ガバナー補佐訪問では、「ロータリーの新時代を迎えて」と題して、卓話でロータリーの新しい行動計画、特に4つの優先事項についてお話しさせていただきました。RIの考えや行動計画の意味をコロナによって気付かされたからです。そして、3月には、11クラブの皆さまの交流と変化への学びを目的とした「山の手東グループ11クラブ合同例会」を開催しました。緊急事態宣言の延長により、残念ながら会長・幹事以外の会員の皆さまはオンライン参加となってしまいましたが、各クラブが作られたクラブ紹介動画が、交流の一助に多少でもなったなら嬉しく思います。

各クラブ会長・幹事の皆さまがコロナ禍のなかで例会の在り方を追求され、自クラブに合った形を築いてきたことは、今後につながる大変大きな一歩であったと思います。今年度、結果として表れなかった種まきもたくさんありました。それらが次年度に繋がり、花開くことを願い、今年度最終日まで、会長・幹事の皆さまと力を合わせて進んでまいりたいと思います。



一年間を振り返って～すばらしい仲間との1年間を振り返って～

山の手西グループ ガバナー補佐 菅野 達之介 (東京目黒RC)



「今年こそ、ガバナー補佐を受けて頂きたい」との佐久間バスターガバナーの真剣なお顔に思わず「はい、判りました」とお答えしてしまいました。それから悩みました。自分は、ロータリアンとして20年になりますが、地区のことは坂本年度で奉仕委員会に所属して雨水浸透枘の普及に取り組んだ一年間だけでした。これ以降地区の委員会等との接触もなく過ごしてまいりました。そんな状況ですから、自分に務まるのか自信が持てず、女房にも言えないまま時間ばかりが過ぎていきました。でも嬉しいことに小・中・高と一緒に過ごしてきた、道面さんが大変な役割のグループ幹事を引き受けてくれて、クラブの皆さんと、女房に話をして了解を得ることができました。

福原年度の第1回準備会では、ドキドキしながら参加したところ、よく存じ上げているお顔がたくさん見え、ほっとしたスタートとなりました。そして何よりも福原ガバナーの人間的な温かさや、職

業を通じて得た視野の広さとともにロータリーに対する熱意と愛情にあふれる言葉に、この人のためなら何が何でも協力して無事に一年間を終わらせるようにと、心に決めて自分の福原年度が始まりました。しかしながらスタートしてすぐに新型コロナウイルスが襲ってきました。従来型の歴史のあるクラブは高齢者も多く、会員の安全に配慮して休会を続けざるを得ませんでした。奉仕活動も親睦活動も周年事業も、すべての活動を中止あるいは当面延期する判断を下すことになりました。

そんななか、9月24日から始まる各クラブのクラブ協議会へ参加が何とか始まり、無事にガバナー公式訪問に繋げることができました。10月8日から最終の11月19日には、3クラブ合同で会場を2つにしたハイブリッド方式でガバナー公式訪問を無事に終わることができました。もう残り2ヶ月を切る任期のなかでグループの課題も見えてきました。課題の解決は、次年度以降となりますが、各クラブが力を合わせて、ネットやZOOMを上手に使いこなして解決していただけると信じています。1年間ご協力ありがとうございました。

一年間を振り返って

多摩南グループ ガバナー補佐 渡邊 良勝 (東京飛火野RC)



ガバナー補佐としての一年間を振り返り、当初は役職上の責務をよく理解もせずお引き受けしてしまったことへの軽率さと、反省で頭がいっぱいでした。しかしながら、2019年7月の第1回ガバナー補佐研修時、福原有一ガバナーから年度テーマ「バリアフリー・マインド」についての丁寧な趣旨説明をお聞かせいただき、水野研修リーダーからは、ガバナー補佐としての役割についてご指導をいただいたことで今日まで何とか頑張ってきました。感謝いたしております。もう一つの不安材料、多摩南グループ内11クラブの会長・幹事の皆さんが、ガバナー補佐としての自分を受け入れてくださるかどうかについても、第1回グループ協議会で初めてお会いした会長・幹事さんたちから「応援します。頑張ってください」という温かい励ましの感触を頂き、「良かった、有り難い」と安堵したことを思い出します。

クラブ協議会へは同席させていただきました。全てのクラブが共通して悩んでいた問題点は「コロナの影響により例会や親睦・

奉仕活動等を、今後どのように推進していったらよいのか」ということでした。国際ロータリー(RI)・地区として、何らかの指針を示すべき、との意見が多かったと思います。私は協議会の席上、出席・例会に関しての「RIのガイドライン」を説明しつつ、活動の内容に関しては各クラブに於いて決定し、クラブ運営については細則に基づき実施し、現行にそぐわない場合は細則の変更が必要となる旨、説明しました。2016・2019年の規定審議会以降、定款よりも細則が優先するかのような逆転したRIの規定・方針に、正直なところ私は矛盾を感じておりましたが、グループの会長・幹事の皆さんが理解を示し、「今後のクラブ運営に当たりクラブ理事会の決定が重要との認識を共有し」前向きに取り組んでいただけたこと大変ありがたく感じています。私はこの一年を振り返って、福原年度を、コロナ禍を逆にバネとして、「クラブ理事会の重要性とクラブの独自性」についての理解を前進させた年度と呼べるように思います。

最後になりましたが、ガバナー・地区役員・グループ内会長幹事をはじめ多くの皆さま方のご支援・ご協力に改めて感謝申し上げます。



## 一年間を振り返って～新型コロナとバリアフリー・マインド～

多摩中グループ ガバナー補佐 尾内 昭夫 (東京立川RC)



一年間を振り返りこんなにも何もなかった、何もできなかったガバナー補佐もかつていなかっただろうと思ひ、不甲斐ない気持ちでいっぱいです。新型コロナウイルス感染症により数多くの例会も取りやめとなったクラブもあり、そして例会のあり方やロータリーに対する概念も大きく変わってしまった一年でした。唯一、Eクラブ

である東京ピースウィングロータリーEクラブだけが例会を続けておりました。グループ内でも二つのクラブの周年式典が取りやめとなり、その他多くの事業が中止となりました。もっともっと多摩中グループの各クラブにおうかがいして会長・幹事のみならず会員の方々と話しがたかった。もっともっとロータリーについて多くを語り合いたかった。誠に残念至極です。私の生涯に一度しかお役に預かれぬガバナー補佐の年度に、なんとコロナ禍なんだろうと。只々、新型コロナが恨めしい。なによりご苦労されたガバナー、他のガバナー補佐、地区代表幹事、地

区幹事、各委員会委員長はじめ地区の方々、各クラブの会長・幹事から会員のお一人お一人に心より「お疲れさまでした」と言うほかありません。いつかまた、コロナなんて気にせずに、酒でも飲みながら口角泡を飛ばしてロータリーを語り合ひましょう。

多摩中グループでは、唯一、ガバナー公式訪問多摩中グループ合同例会・懇親会を11月に行うことができたのが幸いでした。この時、福原ガバナーは壇上より降りて会場内を歩きながら会員と同じ目線で卓話をされました。ああ、これがガバナーの言うところのバリアフリー・マインドなんだと、感銘を受けた次第です。上から目線では無く相手と同じ視線で同じ立場で奉仕する、このバリアフリー・マインドにはロータリーでの奉仕だけではなく、日常生活から人生の細部にいたるまで、今までの自分の態度や行いを考え直すインパクトがありました。このバリアフリー・マインドに出会えたことを今年度の宝物として、次年度からはクラブの末席からロータリーを見守っていきたくと思います。お世話になりました皆さま、本当に有り難うございました。

## 一年間を振り返って～それこそロータリー～

多摩東グループ ガバナー補佐 関戸 達哉 (東京多摩RC)



2020年1月15日、新橋金田中で国際協議会に出席される福原ガバナーエレクト(当時)の壮行会が賑々しく開催され、福原年度は役員会の固い結束の下、7月のスタートを待つばかりでした。しかし、その後の新型コロナウイルスの蔓延は皆さまご存じの通りです。そのような事態のなか、会長エレクト研修セミナー(PETS)の通信教育化や地区役員会のZOOM併用など、新しい手法を用いて地区運営に取り組まれた福原ガバナー、安藤地区代表幹事をはじめとする地区役員の方々のご努力に深く感謝申し上げます。

多摩東グループにおいては今年度、東京狛江RCが創立50周年、東京多摩グリーンRCと東京調布むらさきRCが30周年、東京シティRCが10周年と、10クラブ中4クラブが周年を迎え、ガバナーや他グループの皆さまに我がグループを知っていただく良いチャンスだと喜んでおりました。しかし、それもコロナ禍により、すべての式典や祝宴が中止となりました。周年行事は地元

の市民、行政、諸団体等にロータリークラブを知っていただくと同じように、今後の活動や会員増強の大きな足掛かりになります。それができなかった会長、実行委員長はもとより、全会員の無念さは計り知れません。そんななかで、式典や祝宴はできずとも、記念奉仕事業を粛々と遂行されてきた4クラブの皆さまに敬意と感謝の意を捧げたいと思います。

また、東京狛江RCはこの50周年を期に終結されます。「駅前音楽祭」、障害者との「ふれあい運動会」などさまざまな事業は地域から親しまれ、なかでも愛光女子学園(女子少年院)での職業講話は、多くの少女の更生に貢献し、職業奉仕を金看板とするロータリークラブならではの事業でした。50年間本当にお疲れさまでした。

最後に、この状況下で予定していたグループ協議会の半数は中止、インターシティミーティング(IM)やグループゴルフ大会は開催することができなかったなか、すべてのクラブが今までの事業を継続したり、また新しい事業を開拓したりと、次年度の活動に向け奮闘努力されたことをここにご報告いたします。早く、直接顔を合わせて「やあ」と言える日が来ますように。それこそロータリーですから。



一年間を振り返って～会員委員会 2020-21年度を振り返って～

会員委員会 委員長 石川 和子 (東京中央新RC)



2020-21年度会員委員会の船出は、コロナ禍の影響を受けて大変不安なものでした。2020年4月の緊急事態宣言以降、多くのロータリークラブで休会やオンラインへの切り替えが行われるなど混乱が続きました。

そうしたなか、会員委員会および3つの小委員会では、ホルガー・クナーCR1会長「ロータリーは機会の扉を開く」、福原ガバナー「バリアフリー・マインド」のそれぞれのテーマを実践しようとアイデアを出し合い、試行錯誤を重ね、活動してまいりました。

まず会員委員会として行ったことが「クラブの現状と今後について」のアンケートです。コロナ感染拡大の懸念を受け、クラブごと対応を余儀なくされるなか、各クラブの状況を把握し、対応策を地区内各クラブへ共有することを目的として実施しました。アンケート報告書には多くの反響があり、掲載された対応策を参考に問題を解決したというご意見も多数いただきました。

会員増強・維持委員会では、クラブ会長・幹事と会員増強維

持担当者へ向けて「会員増強セミナー@オンライン」を開催しました。コロナ禍で会員増強がままならないなかでも「維持からの増強」をテーマに、まず会員間の絆を深めクラブ基盤を維持することで、新会員勧誘の体制を整えることの重要性を訴えました。また、新会員の勧誘が難しい状況でありながらも増強に成功しているクラブは「会員増強賞」を贈り表彰しました。

ロータリー情報委員会では、会員委員会ホームページを作成し、「ロータリアンの奉仕活動」を連載しました。また、これを機に2021年2月には奉仕活動に関するアンケートを実施し報告書にまとめたことで、コロナ禍でも成果を上げているクラブの奉仕活動を地区内クラブへ紹介することができました。

親睦親善委員会では、地区内の横断的同好会である「オーブンクラブ同好会」の8同好会を紹介し、自クラブのみでなく趣味で繋がるロータリアンの交流を促進するよう努めました。

会員委員会にとって福原年度は、当初思い描いていた「増強」というよりは、ロータリアン同士の繋がりがや絆の「維持」に重きを置く一年となりました。

一年間を振り返って

奉仕プログラム委員会 委員長 蓮池 攻 (東京田園調布RC)



本年度のロータリーは大変短く感じました。世の中コロナ禍で忙しく動いていますが、時間が足りない程時の流れを速く感じました。充実した時間をいただいたのだと思います。

ホルガー・クナーCR1会長のテーマは「ロータリーは機会の扉を開く」、地区福原ガバナーは「バリアフリー・マインド」

です。どちらのテーマも奉仕の心にぴったりの言葉と思います。私達の委員会は年度が始まる数か月前に準備会を開き、目的・立案・実行等の協議を行いました。

職業奉仕委員会は11月にセミナーを開催し、職業の考え方であるシェルデンか、マックス・ウェーバーの宗教的倫理か、天職かと論じたところ会員から、面白いが難しい議論ですという言葉アンケートでいただきました。その後、わかり易く分析して小冊子を作りました。

地域社会奉仕委員会はアンケートを行い、コロナ禍での活動状況や継続できるかなど今後の活動に繋がられる方向性を出しま

した。

国際奉仕委員会も今までの活動を調査しアンケートを行い、継続または中止をしていけば理由を尋ね、多くのクラブが国際的に参加できるよう考え、補助金の活用方法を学び新たに参加しやすいための基礎作りをしました。

国際親善委員会は韓国と台湾に対し友好クラブの現在の動きを調べ「絆」の深さをアンケートで調査しました。今年度の台湾の国際大会に渡航ができず残念に思います。

全委員会とも「奉仕の集い」に向け全力で努力しましたが地区大会が1日のため中止となり無念に思います。そのなかで、私たちの成果を発表する『ホームページ』を作ろうという機運が高まり、委員会から資料の提示を受け、毎年更新のために内容が補充できる素晴らしい委員会紹介のページを完成させました。

一年を振り返ると目的に向かっての惜しみない努力と協力が有り、素晴らしい友人と出会い、務められたことに感謝いたします。機会があれば古巣と思って戻りたい委員会だと思います。感謝・感謝の連発です。



## 一年間を振り返って

青少年奉仕委員会 委員長 青柳 薫子 (東京広尾 RC)



世界的な COVID-19 蔓延は、2021 年 5 月現在、未だ感染収束の糸口がみえず、青少年奉仕委員会は活動を大きく制限された異例の一年となりました。委員会が主体となって毎年継続的に行われている「青少年交換学生の派遣及び受入」「都立高校生を対象としたインターンシップ事業（職業体験）」「インターアクト年次大会」は、年度始まって早々に中止となりました。若い世代が他者との関わりを通じて共に高め合う RYL A (ロータリーユースリーダーシップアワード) は、本来の趣旨である非日常のなかで自己と向き合う対面研修を重視したいという委員会の考え方のもと、従来通り「現地開催」を計画しました。しかし、11 月末の急激な感染数増加により、直前に開催断念となり、コロナ渦での事業の在り方について改めて考えさせられることとなりました。

さて、国際ロータリー (RI) のローターアクトへの方針変更にも

ともない、2020 年 7 月よりローターアクトクラブ (RAC) はロータリークラブと同様に RI の加盟クラブとなりました。標準ローターアクトクラブ定款の更新、及び推奨ローターアクトクラブ細則の改訂も実施され、会長・幹事会では RAC の新しいルール作成について積極的な意見交換も行われました。ローターアクトクラブは、経験のない異常事態にあっても、時代の流れに迅速に対応し、オンラインを取り入れた例会や研修会を行っています。ロータリアンとともに ZOOM やウェビナー会議に参加する機会も増え、今後の若い力の活躍が楽しみです。福原年度は、ローターアクト大変化の年となりました。

年度の振り返りにあたり、事業の成果を具体的に報告することができずに心残りではありますが、海外派遣の夢かなわなかった高校生へ寄り添い丁寧なフォローアップを続けた青少年交換委員をはじめ、活動の再スタートへ向けて広報に注力し、Web サイトリニューアルにご協力をいただいた関係委員会の皆様には心からの敬意と感謝を申し上げます。ありがとうございました。

## 一年間を振り返って

地区公共イメージ委員会 委員長 宮崎 陽市郎 (東京三鷹 RC)



昨年の 4 月 7 日から一か月緊急事態宣言が発出され、ロータリーのさまざまな会合が制限されたなか、地区公共イメージ委員会は一早くオンライン会合への移行のための準備 (セミナーや会合を ZOOM で行うことなど) をはじめ、9 月 3 日には地区として初めてのオンライン (ZOOM ウェビナー) 公共イメージセミナーを開催いたしました。また、ガバナー公式訪問や地区役員会、山の手東グループの合同例会等、ハイブリッド会合の配信のお手伝いをし、新たな発見をしながら委員会としてオンライン配信のノウハウを蓄積することができました。この蓄積を生かし、参加者の時間・費用などの負担が少ないオンラインセミナーや会合を、コロナが収束した後も活用し続けるべきだと感じています。

今年度、委員会が取り組んだ主な改善点として、ガバナー月信とガバナークリップ (動画) をメールマガジンにより、いち早く

地区内ロータリアンに配信するようにしたこと、地区ホームページを、一般の方と地区内ロータリアン向けに分けてわかりやすいページ編成に変更したこと、新しい業者の協力を得て、情報の掲載依頼に迅速に対応したこと等々を挙げるすることができます。

また、10 月 24 日の世界ポリオデーに合わせて、各クラブにイベントの企画をお願いしました。三鷹 RC、井の頭 RC、ピースウィング RC 合同の「日本のロータリー 100 周年記念オンラインチャリティーコンサート」の案内を、NHK の土曜の夕方のニュースで取り上げていただいたことは、ロータリーの公共イメージ向上のために踏み出した大きな一歩だったと思います。次年度は、地区として公共イメージ向上のために素晴らしい企画を考えているようですので、10 月 24 日の世界ポリオデーに向けて、第 2750 地区のすべてのクラブがさまざまな活動を実施することで、公共イメージ向上に寄与していただくことを心より祈念しております。

最後になりましたが、一年間、皆さまのご協力に心より感謝申し上げます。



## 一年間を振り返って

ロータリー財団委員会 委員長 安保 満 (東京昭島 RC)



財団委員長2年目となる今期はロータリー財団委員会の使命を達成するために、前年同様の「ロータリー財団をもっと身近な存在に」～近くて便利～という委員会方針を立て前年の活動をさらに加速させるべく取り組みを行いました。財団委員会の使命であるロータリー財団プログラムへの参加者を増やすこと、そしてロータリー財団に対する財政支援を増やすこと、そのためには何をすべきかを考えた前期の戦略をまさに実行に移す年度となりました。

財団プログラムへの参加者を増やすためには「プログラムを知らなければ参加できない」「参加しやすいものでなければ参加できない」「参加する価値のあるものでなければ参加できない」という観点から広報活動の強化、卓話の充実、補助金申請／報告のオンライン化の導入、補助金支給基準の見直し、国際財団活動資金(WF)が減額されるなかでのロータリー財団奨学金の

維持等、さまざまな施策を実行しました。

また、ロータリー財団に対する財政支援を増やすためには「寄付のその後の使用方法をディスクローズする」「ロータリー財団の透明性、高潔性、財務健全性、第三者評価を正しく伝える」という観点から財団セミナーやクラブでの卓話、グループ協議会でのプレゼン等、あらゆる機会を通じてロータリー財団の活動をロータリアンが腹に落ちる感覚を味わえるよう活動しました。

コロナ禍でのクラブが例会を中止、縮小せざるを得ない状況のなか、寄付総額は前年を上回る勢いを見せております。残された期間は僅かですが福原ガバナーが掲げたリーディング地区に相応しい寄付実績を達成するため財団委員会は最後まで手を緩めず活動します。

一年間、委員長を支え協力してくれたロータリー財団委員会のメンバー、緊急事態宣言が発令される状況下においてもロータリー財団に支援を継続いただきました区内の全てのロータリアンに心より感謝申し上げます。

## 一年間を振り返って～コロナに翻弄された一年～

米山記念奨学委員会 委員長 松尾 英子 (東京渋谷 RC)



米山記念奨学事業は年度を挟んで新規米山記念奨学生をお迎えする4月のオリエンテーションからスタートいたします。ところが昨年の4月は第1回緊急事態宣言発出の最中であり、オリエンテーションどころかコロナ禍に怯えながら何もできぬまま5ヶ月が過ぎてしまいました。

この事業が人を育てる事業であるため、どうしても触れ合うことが必要不可欠となります。予定していた夏の懇親会は難しくとも、お顔合せ位ならできないものかと検討を重ね、9月12日「米山記念奨学生初顔合わせの会」を三密を避け開催いたしました。自己紹介の時のみマスクを外すなど、親しく交わることのできない不自由な会でしたが、クラスターも出さず安堵いたしました。その後は冬の懇親会や一泊旅行の準備等進めておりましたが12月の自粛勧告、年明け早々の第2回緊急事態宣言でことごとく活動できず修了式を迎えてしまいました。当日は奨学生2名とカウンセラー2名の代表に修了証書と感謝状を

ガバナーからお渡しいただき、他の方々にはリモートでの参加をお願いいたしました。

セミナーはハイブリットやリモートで行いましたが、選考試験は書類選考だけでは正確性を欠きますので例年通り面接試験を決定いたしました。密を避けるため、通常より広いお部屋を準備し、部屋数も増やし待ち時間も15分と短縮し、マスクとフェイスガードを併用するなど万全を期して新規奨学生33名を選考いたしました。継続の方と合わせ46名4月にお迎えできました。奨学生の採用人数は寄付の額により決定されます。コロナ禍のため、各クラブの例会も休会やリモートが多く、卓話でのお願いも十分にできず、周年行事も延期されたり、実施されてもごく簡素なものであったりしてご寄付額が十分に集まらず、コロナ禍のなかでは仕方がないとはいえ、受け入れ人数の減少には責任を感じています。

フラストレーションの多い一年でしたが奨学生を事故も無く無事に送り出し、新たにお迎えでき、長年続いて来た事業を継続できましたことだけがせめてもの救いであったと思っています。



この記事は、各クラブへの  
「ガバナー月信 配信版」で  
ご参照ください。

# ★国際ロータリー第2750地区会員数報告(4月分)★

District 2750 Membership Report April 2021

G	クラブ名	例会	会員数			G	クラブ名	例会	会員数		
			20年7月1日	21年4月末	増減				20年7月1日	21年4月末	増減
千代田グループ	東京南	4	184	188	4	山の手西グループ	東京自由が丘	1	16	16	0
	東京芝	3	56	60	4		東京米山友愛	3	35	37	2
	東京新橋	3	56	54	-2		東京米山ロータリーE クラブ2750	2	34	35	1
	東京赤坂	3	45	44	-1		東京代官山	2	28	28	0
	東京みなと	3	32	33	1		東京八王子	3	63	62	-1
	東京麻布	2	15	15	0		東京町田	4	57	57	0
	東京グローバル	2	20	20	0		東京日野	3	34	32	-2
	東京サンライズ汐留	3	16	17	1		東京八王子西	4	111	109	-2
銀座日本橋グループ	東京銀座	2	180	183	3	多摩南グループ	東京町田・中	2	28	27	-1
	東京日本橋	2	204	202	-2		東京八王子東	3	32	34	2
	東京築地	3	69	69	0		東京八王子南	4	78	77	-1
	東京日本橋東	3	41	42	1		東京町田サルビア	4	35	36	1
	東京中央	3	203	198	-5		東京飛火野	4	22	23	1
	東京日本橋西	3	45	45	0		東京町田東	2	30	30	0
	東京銀座新	3	79	80	1		東京八王子北	1	43	42	-1
	東京シティ日本橋	2	38	35	-3		東京立川	4	119	121	2
	東京中央新	3	56	60	4		東京小金井	3	38	37	-1
	東京あけぼの	3	20	21	1		東京国分寺	3	32	37	5
京浜グループ	東京山王	3	36	38	2	多摩中グループ	東京三鷹	4	42	39	-3
	東京羽田	1	55	52	-3		東京昭島	0	55	53	-2
	東京品川	4	41	42	1		東京国立	2	47	45	-2
	東京大森	1	35	39	4		東京立川こぶし	4	87	89	2
	東京品川中央	3	30	29	-1		東京井の頭	3	23	23	0
	東京田園調布	2	48	48	0		東京昭島中央	3	48	49	1
	東京港南マリーナ	2	18	17	-1		東京武蔵国分寺	2	42	41	-1
	東京大崎	2	24	25	1		東京小金井さくら	4	25	26	1
	東京蒲田	3	59	64	5		東京国立白うめ	3	17	17	0
	東京京浜	3	26	25	-1		東京ピースウィングE	5	23	23	0
山の手東グループ	東京田園調布緑	2	18	18	0	多摩東グループ	東京府中	3	55	54	-1
	東京白金	4	24	28	4		東京調布	3	64	59	-5
	東京高輪	2	23	20	-3		東京多摩	3	20	20	0
	東京西	4	197	194	-3		東京狛江	4	14	13	-1
	東京城西	2	67	66	-1		東京稲城	3	28	27	-1
	東京西南	3	44	43	-1		東京武蔵府中	4	39	40	1
	東京原宿	4	17	15	-2		東京たまがわ	3	20	18	-2
	東京杉並	2	41	39	-2		東京多摩グリーン	3	29	28	-1
	東京神宮	3	24	24	0		東京調布むらさき	3	66	64	-2
	東京恵比寿	3	117	111	-6		東京iシティ	1	18	18	0
山の手西グループ	東京広尾	3	24	25	1	パンパシフィックグループ	Guam	5	*52	51	-1
	東京渋谷	3	35	36	1		Saipan	4	*40	45	5
	東京六本木	3	53	53	0		Tumon Bay	2	*59	56	-3
	東京愛宕	3	31	31	0		Northern Guam	2	*31	31	0
	東京世田谷	3	44	44	0		Pohnpei		*18	16	-2
	東京目黒	2	33	34	1		Palau		14	17	3
	東京成城	2	17	17	0		Guam Sunrise	4	*15	15	0
	東京世田谷南	4	97	87	-10		Truk Lagoon		8	8	0
	東京城南	0	13	15	2		Pago Bay Guam E	2	*23	24	1
	東京山の手	4	70	67	-3		国内88クラブ計		4,364	4,344	-20
東京成城新	3	31	30	-1	地区97クラブ計		4,624	4,607	-17		
東京青山	1	16	16	0							

\*印は暫定値

## 国際ロータリー第2750地区 2020-21年度 ガバナー 福原 有一

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F 電話 03-3436-2750 FAX 03-5472-2750

Rotary International District 2750 2020-21 Governor Yuichi Fukuhara

KOKURYU SHIBA-KOEN BLDG. 3F, 2-6-15 SHIBA-KOEN, MINATO-KU, TOKYO, JAPAN 105-0011 PHONE 03-3436-2750 FAX 03-5472-2750

発行:ガバナー 福原 有一(2020-21) Yuichi Fukuhara 2021

編集・制作:ガバナー月信・年次報告委員会 委員長 渡辺 和彦(東京銀座) 副委員長 二神 典子(東京築地) 諸星 宗幸(東京八王子西)

委員 須賀川 誠(東京銀座) 太田 智(東京中央) 高柳 公康(東京六本木)

浅川 立憲(東京八王子西) 端 晶弘(東京立川) 竹平 時彦(東京大森) 荒木 賢一(東京南)

ホームページアドレス

<https://www.rid2750.org>